



## <取材のお願い>

2023年5月25日

富山大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

### カメルーンの若手研究者と抗がん剤の開発に挑む ～くすりの街：富山発 国際的共同研究を目指して～

富山大学和漢医薬学総合研究所では、6月1日（木）から6月21日（水）までの予定で、カメルーンのジャング大学理学部から大学院生2名、教員2名、計4名を招き、創薬に関する共同研究プログラムを実施します。ジャング大学は、カメルーン西部のジャング州に拠点を置き、優秀な学生が多数在籍する国立総合大学です。

がんの治療薬の開発が進み、5年相対生存率はがん全体では64%まで上昇しましたが、膵臓がんなど難治性がんに対する新たな治療法の開発が依然として重要な課題です。本研究所では、がん細胞の増殖等に深く関わっているアスパラギン酸水酸化酵素（AspH）に着目し、がん特異的かつ副作用の少ない抗がん剤の開発に繋がると考え、AspHの阻害剤を研究しています。ベトナム、ミャンマー、インドネシアの研究者らとの共同研究も展開しています。

一方で、気候風土の違い等により、アフリカの天然資源から日本やASEANとは異なるAspH天然阻害剤が見つかる可能性があるかと推測できますが、本研究所では、アフリカ諸国の研究者との共同研究には至っていませんでした。本プログラムでは、カメルーンの若手研究者とともに、カメルーン産天然資源由来の抽出物25種類から、AspH阻害活性を示す化合物を精製し、新規抗がん剤開発に繋がる化合物の確定を目指します。本プログラムが、アフリカとの本格的な共同研究への契機となり、富山を中心とした国際的共同研究へと発展することが期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」\*に採択されたものです。

\*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」  
科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費をJSTが支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>





つきましては、カメルーンの研究者との研究の様子、研究成果の報告会の様子などを取材していただければ幸いです。

なお、参加者をはじめ、実施担当の森田 洋行教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

**【実施内容】**

- カメルーン産天然資源由来抽出物の AspH 阻害活性の検証、化合物の精製等の実験
- 研究進捗状況についての報告会及び本学学生による研究成果発表会
- 研究成果の報告会と今後の計画に関する打合せ

**【研修日程概要】**

6月1日(木)	午後：本プログラムの実験計画の確認・打合せ
6月2日(金) ～ 6月9日(金)	AspH 阻害活性の検証及び化合物の精製等
6月10日(土)	研究進捗状況についての報告会／日本人学生研究成果発表会
6月11日(日)	自由行動（富山市内見学等）
6月12日(月) ～ 6月19日(月)	化合物の精製と化学構造の決定等
6月20日(火)	午前：研究成果の報告会 午後：今後の計画に関する打合せ 富山空港発
6月21日(水)	午前：離日（羽田空港発） 午後：カメルーン着

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

富山大学和漢医薬学総合研究所  
担当：森田洋行

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室  
（担当：田中(禎)、太田）